

市議会の動き

平成20年度一般会計
補正予算などを可決
～平成20年第2回定例会

6月11日に閉会した第2回定例会について、
審議内容をお知らせします。また各委員会の
活動状況(6月11日～7月10日)についても
お知らせします。

編集●札幌市議会事務局 ☎211-3164 FAX218-5143 市議会ホームページアドレス●www.city.sapporo.jp/gikai

代表質問から

今回の定例会では、五月二十八・二十九・三十
日の三日間の日程で代表質問を行いました。
その中から主なものをお知らせします。

市電を生かしたまちづくり

長谷川 衛(民主党・市民連合)

問 路面電車は、重要な交通手段であると同時に、幅広くまちづくりに生かしていくことが重要だと考えます。例えば、西創成地区連合町内会による、路面電車が走る町並みの写真を掲載したカレンダーの作製、中央区内の連合町内会や老人クラブ、商店街振興組合などで組織された「市電の会」による「市電沿線ぐら

りまちあるきマップ」の作製、札幌市立大学の学生や大通地区商店街による車体や電停前のイルミネーション設置など、すでに市民レベルでは、さまざまな取り組みが行われています。今後、路面電車を沿線の地域の活性化やまちのにぎわいの創出に活用していくため、市民や地域の活動とどのように連携を図っていくのか伺います。

答 市民や地域の活動との連

携については、今後も、路面電車の新たな魅力づくりやサービス向上などの工夫を通じて、沿線のにぎわいづくりに貢献するばかりでなく、利用増加にもつながるよう、沿線の店舗や金融機関、都心の事業者の方々と協働して、連携の輪を広げていきたいと考えています。



問 現在の車両は乗降口の段差が大きく、高齢者に優しい乗り物とは言い難いため、早急にバリアフリー化を進めることが必要と考えます。低床車両の導入について、どのようにお考えですか。

答 低床車両の導入については、安全運行を確保するとともに、高齢者などの利用に配慮した車両の導入を、平成二十二年度に計画しているところです。

厚別区もみじ台地区のまちづくり

小嶋 裕美(自民党)

問 もみじ台地区は、ほかの地区には見られない猛烈な勢いで高齢化が進んでいます。平成十六年に発足した「もみじ台まちづくり会議」では、高齢化の進む中でどのようなまちづくりを進めたらよいか話し合っていますが、地域住民のみで解決するにも限界があり、市として速やかに取り組みを進めていく必要があると考えます。

答 デイケアセンターやグループホームなどの福祉施設、住民のコミュニケーションの場になるコミュニケーションレストランなどを立地できるよう、地区計画の見直しを検討することが必要です。さらに、一戸建て住宅に住んでいる高齢者が高齢者対象住宅に住み替えて、空いた住宅に若い人が転入してくるような仕組みづくりの検討も必要と考えます。市として、もみじ台地区を、どのように認識しているのか、また、今後の在り方や市の取り組み方針について、どのような検討を行っているのか伺います。

答 人口減少、少子高齢化が急速に進むもみじ台地区の課題解決に取り組むことが、同様の問題を抱える他地区へ向けた先導的役割を担うものと認識しています。「まちづくり会議」には、今後、地域と市が協働して取り組みを検討する部会が設置される予定であり、勉強会やワークショップで意見のあった「気軽に集える憩いや交流の場」「地域の茶の間」の充実や「地域に密着した福祉施設が立地できるような地区計画の見直し」など、取り組みをさらに進めていきたいと考えています。



「ごみ問題」

福田 浩太郎(公明党)

問 家庭ごみの有料化実施に当たっては、経済的な弱者に対し特別な配慮が必要と考えられています。有料化に伴う出費